

「硬組織疾患研究」社会還元へ 「歯と骨」COEで成果

東京医歯大
がセミナー

東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科は10月15日、東京・湯島の同大歯学部特別講堂で21世紀COEプログラム「歯と骨の分子破壊と再構築のフロンティア」の成果の発表、研究の意義などについて、主に大学院生を対象としたセミナーを開催した。



このCOEは文科省により平成15年度に採択され今年度が最終年度。研究予算は5年間で総額10億円という大型のものである。基礎生命科学領域においては、臨床医学の根幹となるシグナルやサイトカイン、成長因子ならびに細胞生物学的な領域における分子的な制御の機構や細胞外基質の意義について「ネイチャー」などに発表された多数の成果をはじめとし、先端的な研究が展開している。

田政樹教授は「このCOEの特徴は歯学系、医学系、難治疾患研、生体材料工学研、研究部の5部局の事業推進担当者が部局の枠を超えて融合的な基盤を創出し、世界トップレベルの硬組織疾患の先端的研究を行っていること。また、外部からCOE特任教授・准教授・講師(シヤベロン教員)を11人、さらに特別選抜大学院生(スーパーチューデント)を38人採用し、世

界にも類を見ない若手研究者の育成法を実施し有効に機能させており、今後の科学研究・教育システムのモデルケースとして発展性もある」と語った。写真。世界でも有数の長寿国な

らびに高齢化、少子化の進行する日本においては硬組織関連疾患の医療費の増大のみならず、高齢者がいかに社会的に有意義で健康な生活を送れるかという問題に直面しており、将来ますますこの問題が増大する。このCOEの研究成果はすでに新たな硬組織疾患の先端医療の方法として社会的に還元されつつあり、今後の研究も、学術的にも社会的にも意義がある。